

平成 26 年度 安曇野市中学生海外ホームステイ交流派遣事業

参加体験文集



平成 27 年 3 月 21 日(土)から 3 月 30 日(月)

安曇野市・安曇野市教育委員会

平成 26 年度 安曇野市中学生海外ホームステイ交流派遣事業

1 目 的

本事業は、グローバル化する国際社会に対応できる人材を育成するために、市内の中学生が海外ホームステイを行うことにより、国際感覚を養うと共に英会話能力の向上と、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成することを目的とします。

2 派 遣 先

オーストラリア メルボルン

3 日 程

平成 27 年 3 月 21 日（土）から平成 27 年 3 月 30 日（月）までの 10 日間

月 日	日 程
3/21(土)	出発（安曇野合同庁舎） 成田空港⇒メルボルン国際空港⇒ホテル
3/22(日)	ウェルカムパーティー（ビーチにてオーストラリア式BBQ） ホストファミリー紹介 ホストスクール(Stella Maris Primary School)校長紹介 終了後、各ホストファミリー宅へ移動 【ホームステイ】
3/23(月)	午前 Stella Maris Primary School(小学校)で通常授業に参加 午後 Parkdale Secondary College(中高等学校)で交流 【ホームステイ】
3/24(火) ～3/25(水)	Stella Maris Primary School(小学校)で通常授業に参加 ホストスクール主催の送迎会へ参加 【ホームステイ】
3/26(木)	市内見学 公共機関を使って市内を移動 Queen Victoria Market でオーストラリアの食文化を体験 Melbourne Museum を見学しオーストラリアの歴史を学習 【ホームステイ】
3/27(金)	観光 Wildlife Park でオーストラリアの動物との触れ合いを体験 Sovereign Hill でゴールドラッシュ当時のオーストラリアの歴史や 当時の街並み、生活を体験 【ホームステイ】
3/28(土)	各ホストファミリーと生徒が観光、ショッピング等で1日を過ごし、 生きた英会話を習得 【ホームステイ】

月 日	日 程
3/29(日)	ホストファミリーとお別れ メルボルン国際空港⇒成田空港
3/30(月)	到着 成田空港着⇒安曇野合同庁舎

4 参加者

市内中学校 7 校の生徒 12 名及び安曇野市教育委員会以下引率 2 名

引率者：安曇野市教育委員会 宮川力

豊科南中学校教諭 松島千尋

5 作文目次

今の自分	豊科南中学校	3 年 2 組	阿部竜真	P3
知らない土地で	豊科北中学校	3 年 2 組	横田喜香	P4
セレンディピティーを発揮して	穂高東中学校	3 年 4 組	高島琢登	P5
初の異国の地で感じたこと	穂高東中学校	3 年 6 組	高橋由佳	P6
ホームステイを通して	穂高東中学校	3 年 4 組	青柳舞夏	P7
ホームステイで得たもの	穂高西中学校	3 年 4 組	赤羽絢夏	P8
変化	穂高西中学校	3 年 3 組	赤沼龍之介	P9
ホームステイで学んだ事	穂高西中学校	3 年 2 組	小山絢香	P10
充実した十日間	三郷中学校	3 年 3 組	田野文貴	P11
通じ合うこと	堀金中学校	3 年 3 組	小澤真樹	P12
G o!(豪)オーストラリア ～学び多き海外研修～	堀金中学校	3 年 1 組	杉本 光	P13
ホームステイの感想	明科中学校	3 年 1 組	坂本雅哉	P14

今の自分

豊科南中学校 3年2組 阿部 竜真

僕は、この海外ホームステイ体験を通して大きく二つのことを学びました。

一つ目は、支えてくれる人の大切さです。今回のホームステイは手塚さんや伴在さん、宮川さん、松島先生を主に、たくさんの方々の助けを借りました。また、オーストラリアの学校も僕達を受け入れてくれたし、ホストファミリーにもすごくお世話になりました。

その中でも、一番感じたのは家族の存在でした。事前学習の送り迎えから渡航の準備まで、とても僕一人ではできませんでした。今回はホストファミリーの家で泊まり、食事など全てにおいて僕を家族の一員にしてくれました。他人の家なので、一杯の水をコップに入れてくれるだけでも感謝の気持ちが湧きました。

でもちょっと考えてみるとそれは普段僕の両親がやってくれていることと大した差はありませんでした。言葉として知りながらも実感があまりなかった家族のありがたさ、僕はそれに甘えて生きている。ということを感じました。

二つ目は、日本の良さです。ホームステイに行ったオーストラリアもすごく良いところでした。街を歩く人みんなが笑顔で楽しそうでした。自然豊かで、人々も大らかで優しく、日本にはあまりないフレンドリーなところもありました。その一方で、日本にしかないところも発見しました。例えば、日本の道の綺麗な事です。また、日本人は物を大事にしている事にも気付きました。オーストラリア人はよく食べ残しをします。オーストラリア人の大らかな性格も楽しくて、安心できるけれど、日本に帰って来て安心するのは、日本人ならではの丁寧さが現れている所があることです。

日本の文化もまた、世界に誇れるものだ気付きました。僕のホストファミリーの息子さんは日本についての本を持っていて、日本についてとても興味を持っていました。日本の文化を説明すると目がキラキラしていました。僕が持っていったお土産もホストファミリーに感動されました。

でも、残念なことに、僕には全てを説明することができませんでした。反物とか、藍染めなどをうまく説明できませんでした。そこで僕は思いました。僕も、もっと日本のことを知らなきゃなど。他の国の文化や言語を知ることも大事です。しかし、自分の国の言語や文化を深く知って初めて、国際社会に入っていけるのかなと思います。

僕がこのホームステイ体験で得たもの、それは今置かれている自分の状況の良さがわかったということです。僕を支えてくれている全ての人に感謝したいと思いました。日本のことを深く知り、誇りにしたいと思いました。ホームステイで体験したことをいつまでも忘れず、これからは生かしたいと思えます。

知らない土地で

豊科北中学校 3年2組 横田 喜香

三月の下旬、「これからどんな楽しいことが待っているのだろう」と期待に胸を膨らませメルボルン国際空港に降りたちました。

そして、町の都心部に向かい全員でガイドの方と一緒に町の散策をしました。交通量は日本と同じくらい車も人も多かったけれど、自転車の量がとても少ないと感じました。その後、ビーチでホストファミリーと初めてお会いしました。

第一印象はとても優しくそうだと思います。そこのビーチで小学校と一緒に通うホストファミリーのリリィと遊び、二人共話するのが少しぎこちなく必死に頭の中で、話題を探していたのを覚えています。ホストファミリーの家に帰ってからも少し戸惑いました。ですがリリィが私を楽しませようと色々なおもちゃを持ってきて説明してくれてとても嬉しく思いました。今考えると、もし、あの時互いに相手のことを思いやっていなければ最後の最後まで絆が生まれなかったんじゃないかと思います。

次の日からは学校に通い始めました。私はリリィとは別のクラスになってしまいました。ですがクラスの子たちが、英語がわからない私のために、できるだけ簡単な言葉やジェスチャーでいろいろ説明してくれたりおしゃべりしてくれたりしてとても楽しく過ごしました。小学校では自分の意思表示をハッキリしていて、クラスの前でもハキハキとしゃべり堂々としていてすごいと思いました。ですが意思表示をするのは当たり前のことだと思います。その当たり前のことができてない私は、クラスの子達をととても尊敬しました。確かに発言するのは勇気がいると思います。でもあと少しの勇気を出して、発言や立候補などを積極的にしたいと思います。

ホームステイをしてる間にリリィと一緒に何度か料理をしました。あるとき、パンの生地をこねているとボールがすごく動いていたので、自然と私はボールをおさえていました。それを見ていたホストマザーは、写真を撮ったりしてとても喜んでいました。『協力する』と言うことは世界共通で、協力することは大切なんだと改めて実感しました。

今回の経験で強く感じたことは『言葉がすべてじゃない』と言うことです。生まれた場所、育った場所、住んでいる場所、話す言葉たくさん違いがあります。ですが言葉が通じなくても一緒に笑うこと、あそぶこと、汗を流すことたくさん一緒にできることがあります。そこから自然と気持ちが通じ合い深い絆を育むことができました。

最後に現地の方、教育委員会の方など支えてくれたすべての方に感謝申し上げます。この体験を今後の人生への自信へと繋げていきます。本当にありがとうございました。

セレンディピティーを發揮して

穂高東中学校 3年4組 高島 琢登

「ワット〜タクト？」初日のバーベキューで、ホストマザーのドムさんが話しかけてくれました。しかし、言葉のキャッチボールはできないまま気まずい空気が流れ、二人の子供はまだ来ず、ドムさんが気をつかっているのがわかりました。しかし、「このままではだめだ」と思い、すごく簡単な質問でも声に出して答えたことが、今回のホームステイの、大きな分岐点だったように思います。

出国前に、僕は「兄になる」「日本のことを忘れる」という目標を立てました。二年生のフリンと一年生のエマは、すごくかわいい兄妹です。お土産のけん玉を頭にぶつけて泣いていたときは、英語で必死に泣きやむように努力しました。アイスクリームのけんかで仲裁に入ったり、今日は二人のクラスに来てほしいと言われ、各クラスの先生に理由を説明したことなど、日本語を使えない中で臨機応変に対応できました。それは、二人のおかげで自然と兄という立場で濃いコミュニケーションの場が生まれ、自分の最大の力を出して、「聞く・伝える」ことに必死になれたからだと思います。ホストスクールでは三日という短い中で「こんにちは」など、いつも声をかけてくれました。一年生の教室では、常に周りを取り囲まれ、幸せなひとときでした。僕は、『日本の小学生と一年』というテーマでプレゼンをしました。その中では、節分の豆まきをメインに体験してもらい好評に終わりました。しかし、振り返ってみると、説明できる所は早口になってしまったり、間違っている所や少し理解しづらい所は、担任の先生に補足説明をしてもらいました。クラスの皆は、難しいのによく耳を傾けてくれて、質問にも一生懸命答えてくれました。何より先生に助けてもらい、やっとお互いが通じ合ったときの笑顔は僕にとって忘れられない宝物です。そこで重要なことに気がつきました。「日本を忘れる」という目標を挙げましたが、今この自分を作っているのは、日本でしてきた経験が大きな土台になっているのだと。吹奏楽でサクスを演奏していると言うと、アボリジニの伝統楽器を吹かせてもらったり、けん玉や折り紙（紙飛行機）、ハリーポッター好きといった、数々の経験が言語と同様に重要なコミュニケーションツールの一部であることを実感しました。

今回、オーストラリアでは、言葉・文化・自然・宗教などと共に、たくさんの出会いがありました。ドムさんの家では、家族の仲間入りをさせてもらい、これをきっかけに十日間だけでは吸収しきれなかったものを得るために、近い将来に帰ろうと思っています。

僕は、機会があればホームステイに行きたいと思っていましたが、これ程早く、そしてこのように充実した体験をさせてもらえるとは思っていませんでした。それも、多くの方々に支えてもらえたおかげです。本当に感謝しています。今後もこの自分に満足せず、「学びのチャンス」を見逃すことのないように、磨き続けて準備をしています。

初の異国の地で感じたこと

穂高東中学校 3年6組 高橋 由佳

私がこの海外ホームステイ体験を通じて学んだこと、感じたことは数え切れないほどありますが、その中でも強く印象に残っていることをいくつか紹介します。

一つ目は、やはり文化の違いです。土足のまま家の中で過ごすことに対してはあまり違和感を感じませんでした。食への関心という部分では驚きを隠せませんでした。私が見た姿、つまりホストファミリーや外食時の周りの様子だけなので、それが全てではないと思いますが、私が見る限りいつも同じようなものを好んで食べ、それも少量でした。これは子供に多く見られ、外食の時も同じでした。ただ少食でそのものが大好きなだけかもしれません。私の感覚からするといくら好きなものでも他のものも食べたいと思うし、日本人の感覚で「もったいない」というのがあるので、あまりにも残す姿を見て少し心が痛みました。ただ、このままではいけないと思って、この「もったいない」という精神を私のつたない英語で必死に伝えてきました。少しでも伝わっていただければいいなと思います。

二つ目は、小学生の活発さです。小学生は男女共にとっても元気が良く、休み時間になるとみんな一斉に外にとび出します。日本でも似たようなことは起こっていますが、教室から出ない子もいるのでほぼ完全に校舎に人がいないのを見るのは初めてでした。また、日本と大きく違うところはそれが授業にも活かされているということでした。日本では先生が挙手を求めたときにいつも決まったような児童・生徒が手を挙げ発表をするという感じでしたが、オーストラリアでは先生が話をしているときに全員がずっと挙手をされていて、あてられて質問をし答えが返ってくるとさらにそのことについてまた質問をされていて、私は本当に感心しました。こういうふうに行えば、ただ授業を受けるよりも学びが深まるので、日本人も恥ずかしがらずにもっと質問や発表をしていただければいいのになと思いました。

三つ目は、全体的にとっても自由なことです。学校を例に挙げますと、日本では一時間目、休み時間、二時間目といった感じですが、オーストラリアは一時間目と二時間目の間に区切りが無く、そのかわりにいつでもお手洗いへ行っていいというような感じで、初めて学校に行った日は本当に驚きました。日本と違って規則があまりないので、乱れてしまわないのかなと思いましたが、生徒たちがきちんとしているので大丈夫でした。むしろ、自由だからこそ、そういった自分達で考えて行動することが身に付いているのではないかなと思いました。

他にも驚いたり学んだりしたことがたくさんあるので、周りの人にそれを発信していき、より良い環境を作っていければと思います。

ホームステイを通して

穂高東中学校 3年4組 青柳 舞夏

外国は知らないことで溢れていました。異国の地での生活ということで、少しは「日本と違うことがあるんだろう」と思っていました。それ以上に多くの発見がありました。

そして最も多かったのは、ホームステイ先の小学校の中でした。時間厳守の日本と違って、授業間のチャイムがまったくなく、また授業の区切りごとに間食をはさむことや、授業中に水を飲むことが認められていました。さらに、授業の区切りが曖昧になっていることで生徒一人一人のペースで物事が進められ、「自分から」という自主性をきっかけに児童が行動するようになっている印象を受けました。もう一つは先生が話している時でも挙手制で発言できることです。この光景を見た時、初めはとても驚きました。もし、日本でこのようなことをしたら、話している方に失礼だと思ったからです。しかし、ホストスクールでは、挙手して質問をすることで児童自身の意見を尊重し、自分の考えを相手に伝える力を育てることを大切にしているように見えました。

さらに、海外でのホームステイは、自分の成長に繋がるきっかけにもなりました。帰国後、私が英会話の塾で外国人の先生と話した時、ふと「前より話し易いな」と思いました。今までは、「外国の言葉」・「うまくしゃべれない」ということを気にして、会話に消極的でしたが、帰ってきた後は、自分から「話したい」・「コミュニケーションをとりたい」と言う思いが強くなって、また以前より笑顔で積極的に、そして自然に英語を話せるようになりました。私自身、帰ってくるまで気づきませんでした。このことに気づいた時はとても嬉しくなりました。

私は今回ホームステイでの十日間を通して、今まで学習した英語はなんだったのだろう！と思いました。そして、英語を話す上で大切なことは、英語の技能よりも言葉の壁に負けずに話す自信だと思いました。

今回の研修以降、私は再度ホームステイに行きたくてたまりません。機会があれば、ホームステイで学んだことを生かして、また行きたいと思いました。

ホームステイで得たもの

穂高西中学校 3年4組 赤羽 絢夏

私は今回のホームステイを通してとても多くのことを学ぶことができました。その中でも特に三つのことが印象に残っています。

一つ目はやはり、コミュニケーションです。オーストラリアに行く前は、大体の英語は聞き取れると思っていたのですが、本場の英語を聞いてみてビックリしました。いつも英語の授業で聞く速さとは全然違うとても速いスピード。そして聞いたことのない単語だらけ。最初は全然聞き取れず、首をかしげるばかりでした。でも、慣れてくるとだんだん分かるようになり、分かると大きな喜びが胸の内から湧き上がるような新鮮な感覚を味わうことができました。そして英語でもっとコミュニケーションを取ってみたい、英語が楽しいと思うようになりました。帰国後もその気持ちは変わっていません。速い英語が聞き取れる、そして自分の英語が伝わるということは、私に大きな感動と衝撃を与え自信へとつなげてくれました。

二つ目は、人々の温かさを感じられたことです。ホストファミリーは私のことを常に気にかけてくれました。私が理解するまで辛抱強くいろいろなことを教えてくれました。また、学校では先生や子供たちが温かく迎えてくれたので、楽しい時間を過ごすことができました。このように、オーストラリアでは人々がみな温かさを持っていて、地域全体が家族のようでした。日本では今、隣人との付き合いが無い家庭や家族内での会話が少ない家庭が多くあります。私の家も食事中は大体TVが付いていて、家族でそんなにたくさん話すわけではありません。だからもっとつながりを大切にしたいと思います。なぜなら、「絆」は安心できる街づくりには必要不可欠だし、何よりみんながつながる街はとても魅力的であると痛感したからです。

三つ目は異文化交流です。町並みや料理の味、言葉や人々の慣習など違いが多くありました。中でも日本の教育とオーストラリアの教育の違いには強い衝撃を受けました。オーストラリアはとにかく自由。みんなが同じ枠におさまろうとする日本とは違い、それぞれの個性が認められていました。このことは日本の教育にも取り入れるべきです。また、「違い」を学ぶことで異文化のすばらしさ、美しさも理解することができました。

今回のホームステイを通して、たくさんの知らなかったことを知り、多くの経験をしました。世界には自分の知らないことがいっぱいあると分かり、またいつか海を越えてみたいと思うようになりました。そして、いろんな知識を得て技術を磨き、夢を叶えたいと思います。医者になってこの町、この国、そしてこの世界の苦しんでいる人を助けるという大きな夢を。

変化

穂高西中学校 3年3組 赤沼 龍之介

「really?」ふと思い返すと、十日間の中で最も多く使ったのはこの言葉だったように思います。「うそだろう?」といった驚きを表す言葉です。オーストラリアの街並みを見て、南極海へとつながる海を見て、青く広がる空を見て、僕は何度この言葉を発したか分かりません。

僕がまず驚いたのは、そこに住む人々と接した時のことです。初めて会った時、彼らはにこやかに笑顔で挨拶をし握手をして、そしてついさっき出会ったとは思えない位楽しげに話し出します。話している時も積極的に質問したり、自分の考えをはっきりと言ったりと、話していてとても気持ちのいい人達です。果たして日本人はこんな風に話せるのでしょうか。そもそも、街を歩いていて初めて出会った人と話をする機会があるのでしょうか。日本とオーストラリアをこのように比較した時、僕は「人」について強く興味を覚えました。

十日間ホストファミリーと共に生活してきて、前述したような「人」のよさは、国のあり方が深く関係していると思いました。

日本は小さな島国です。おまけに江戸時代には鎖国という政策を取り、いわば日本は世界での文化交流において、ほとんど孤立していました。江戸時代末期、日本は開国し、二百年余り続いた鎖国は終わりました。しかし僕は、日本人の心はいまだに開国しきれていないのだと思います。日本人はあまり外国について知ろうとしません。

オーストラリアはとても日本に友好的な国でした。小学校では日本語の授業もあり、「ありがとう」などの簡単な言葉なら大抵の人が話すことができます。今の日本人がいかにも「世界」から遠いのかということを感じました。確かに、日本人は独特な文化を持つ為欧米の文化に慣れるのは難しいことです。事実僕もそうでした。日本とその他の国々の間には多くの壁があります。言葉、習慣、風土。多くの違いがありますが、一つだけ日本と何も変わらないものがありました。それもやはり「人」でした。性格や話す言葉は違って、喜び、悲しみで、怒り、それらは日本人と何ら変わりません。当たり前のことですが、これが今回の一番の驚きであり学びでした。

今までの僕は、国際的だ、世界は一つだと叫びながら、実は何も分かってはいなかったのだと今回の事業で痛感しました。果たして自分は変わったのか分かりませんが、今回のこの体験で得た貴重な刺激を大切にしたいと思います。

ホームステイで学んだ事

穂高西中学校 3年2組 小山 絢香

私はオーストラリアでのホームステイを通して文化の違いなど数え切れない程の事を学び体験することが出来ました。その中でも特に三つの事が強く残っています。

一つ目は、文化の違いです。私はこのホームステイに行く前にインターネットでオーストラリアについて少し調べたりしていましたが、実際現地へ行くと、ほぼ日本と違ってびっくりしました。まず、時間通りに電車がこなくても、誰も怒らないのに驚きました。日本ではきっちりと時間で区切られているけれど、オーストラリアでは何だか時間の流れがゆったりとしていて不思議な感じがしました。さらに、寝る時間が早くて驚きました。私のホームステイ先の家族は、夜 10 時には全員が寝ていたのでびっくりしました。ですがだからこそ、一日を元気に過ごすことができるのだと思います。

二つ目は学校生活の違いです。一番驚いたのは、おやつを食べる時間があることです。日本では絶対にありません。でもゴミが散らかっていることはなく、自分でゴミを片づけていました。また、通常授業に参加するといっているので緊張していましたが日本のように緊張感がなく、自由な雰囲気の中で思ったことを発言していてとても楽しそうでした。先生も意見を否定せず聞き入れ、参考にしていました。とても雰囲気が良くて一人一人がのびのびとしていられる空気が本当に良かったです。さらにみんな授業と遊びのメリハリがついていました。日本と全てが違い驚き感動しました。

三つ目は英語力です。初日はほぼ聞き取れませんでしたでしたが、日数が経つにつれて単語だけでも聞きとれるようになりました。そして周りから新しい表現を学ぶこともありました。一日一日が経つにつれて自分の英語力の成長が感じられ、すごく嬉しく思いました。

以上三つの事を私は強く体感しました。また、これからの課題も見えてきました。それは、もっとたくさんの単語を知り会話中の表現を覚えることです。

今回のホームステイで私は英語でコミュニケーションをとることの楽しさを実感しました。完璧に意味は分からなくても相手と通じあえた喜び、単語だけでも自分の考えを伝えられた達成感は一生涯忘れません。またさらに英語を勉強し、たくさんの単語を覚えていきたいと思います。また、このような経験をさせていただいた皆さんには本当に感謝しています。一生忘れることのない貴重な体験ができました。またこのことは社会に出ていくにあたって役立つことと思います。本当にありがとうございました。来年参加する後輩にも英語を話すことの楽しさや文化の違いを体感してほしいと思います。

充実した十日間

三郷中学校 3年3組 田野 文貴

僕は、今回のホームステイを通じてもっと英語を話せるようになりたいと改めて思うことができました。最初は自分の英語が通じるかなどの不安もありました。でも、不安はすぐなくなりました。ホストファミリーがいつも優しくとても親切にしてくれたのでとても充実した楽しい十日間を過ごすことができました。

初日は、ホームステイを受け入れてくださるホストファミリーとホームステイをする私たち全員でバーベキューをビーチでしました。その後、家の周りを車で案内してくれました。夕食の買い物は近くのショッピングモールみたいなところに行きました。日本では見たことのないようなお店もありました。また、日本食のお店もありました。

日本からのお土産の「箸」をあげるととても喜んでくれ、その日から毎日使ってくれました。

次の日からの三日間は、オーストラリアの学校に行きました。オーストラリアの学校は日本と始まる時間が違い遅く、授業をおやつを食べながらうけているところは日本では見たことのない光景でした。授業では、日本語の授業がとても良く、クラス全員がとても熱心に取り組んでいました。また、ジャパニーズデイというものがあり、とてもたくさん日本語を学んでいることが分かりました。さらに、日本の学校と友達関係が違いオーストラリアの学校はとても過ごしやすく感じました。日本にもオーストラリアぐらい外国語を学ぶ授業がほしいと思いました。

残りの日は観光をしました。市場や動物園、博物館やオーストラリアの歴史が分かるところに行ってきました。どの場所も日本よりも広く、ホストファミリーと行った市内観光はとても楽しく、ハンバーガーの大きさとおいしさがすごいと思いました。

今回のホームステイを通じてヒアリングの力が前よりも良くなったと思いました。初めの三日間に比べ後の五日間はほとんど耳が慣れてきて充実したホームステイだったと思います。また、ホストファミリーがこれは日本語で何ていうのとか、逆にこれは英語で何ていうのなどといったような国際交流ができましたが、正直スピーキングの力は行く前とあまり変わりませんでした。これから英語が話せるようになるために、単語をできるだけたくさん覚え、文法をしっかりと理解し、毎日少しでも英話にふれて、来年の七月頃にホストファミリーが僕の家に来るので、その時は日本や安曇野市について説明できるようにしっかりと勉強していきたくと思います。今回の貴重な体験を今後の生活に生かし、さらに将来の仕事にも生かしていけたらより良いと思います。

通じ合うこと

堀金中学校 3年3組 小澤 真樹

私にとっては初めての海外ホームステイで、不安な事がたくさんありました。例えば、今まで学習してきた英語は本当に通じるのか、ご飯を多く盛られないか、風邪をひかないかなどです。

ですが、一つ目の不安の「英語が本当に通じるか」をはじめ、すべての不安が解消され自信へとつながりました。

ある伝えたいことを英語でどう言えばいいのかわからなかったことがありましたが、身ぶり手ぶりでがんばって説明して、わかってもらえた時、通じ合うことの喜びを実感しました。また、「ご飯を多く盛られないか」の場合は、自分がどれだけほしいのかを伝えれば、その分だけ盛ってくれます。「風邪ひかないか」の場合は、私が軽い風邪をひいてしまった時に、薬と暖かいジャンパーを用意してくれました。つまり、きちんと伝えれば、必ずわかってくれるのです。相手も目を見て理解しようとしてくれるので、伝わった時の達成感をお互いに分かち合うことができました。

現地の小学校に通い、私は特に二年生と一緒に行動していました。小さい子たちはとても早口で聞き取りづらい時もありましたが、「ゆっくり話して」と言えば、快くゆっくり話してくれて、わからないことを聞くと、私にわかるように一生懸命教えてくれます。また、その小学校には「ジャパニーズデイ」があり、生徒が日本的な格好をしたり、日本的なランチを持ってきたりしていました。ある女の子に、「かんざし風」に飾ってある髪をほめたら、笑顔でありがとうと言って喜んでくれました。これらを通して、「日本文化」で通じ合うことができました。

このような通じ合うことの喜びは、異国、異文化に触れたからこそ、味わうことができたのだと思います。そんな機会を与えてくださった安曇野市教育委員会様、株式会社テヅカ様、そしていつも支えてくれる父と母にとっても感謝しています。

私は今、中三の十四歳です。将来私たちが働くころは、もっとグローバル化していることでしょう。今回の海外ホームステイで学んだ「通じ合うこと」の喜び、英語力を生かして、日本にとどまらず世界規模で「通じ合うこと」ができるような人材になりたいと思います。また、2020年に東京オリンピックが開催されます。私は2000年生まれなので、ちょうど二十歳の時です。東京の方の大学に行きたいと思っているので、オリンピックでは言語ボランティアなどで少しでも人の役に立ちたいと思っています。

「通じ合うこと」は無限にできます。これからさらに英語に磨きをかけ、「通じ合うこと」をより活発にして、社会にたくさん貢献したいと思います。

GO！（豪）オーストラリア～学び多き海外研修～

堀金中学校 3年1組 杉本 光

初めての環境。初めての経験。初めての国。オーストラリアでは、予想以上の新しい発見や驚きにたくさん出会い、多くを学びました。中でも大きな収穫だったのは、次の二つです。

一つ目は、文化や習慣の違いについて具体的に学んだことです。例えば、家の中で靴を脱がない。お風呂にバスタブが無いなど予想していたこともあります。子供も正装でレストランに行く。大きなゴミ箱を外においておくと持っていってくれる。ホストファミリーの中学校では授業中もタブレット端末を使い、宿題もそれで提出しているなど、日本では考えられないようなこともありました。

中でも驚いたのは、小学校での授業のやり方です。僕が入った6年生のクラスでは、話し合いや意見交換が主で、ノートや教科書はほとんど使っていませんでした。生徒全員が授業へ積極的に参加し、発言することが重要で、自分の意見を発表する力を伸ばすことに力を入れているようでした。こんなに活発な授業は初めてでしたが、これだけ意見交換をしたり話し合いをしたりしていると、団結力やコミュニケーション能力も高くなるのかな、と思いました。実際休み時間は、学年や男女の枠を越えて遊んでいましたし、初対面の僕にも積極的に話しかけてくれました。

二つ目は、英語コミュニケーション力の向上です。例えば、学校では習わないような、自然な挨拶や受け答え、さらに日常生活でよく使うフレーズや言い回し、親しい関係で使われる表現などが学べたと思います。これは、現地に行き、普段英語を話している人と一緒に過ごさなければ学べないものだと思います。また、正確な英語を使うよりも意思を伝える方が大切だったので、知っている英語を並べてでも分かってもらおうとした結果、英語でのコミュニケーション力が付いたと思います。

その他にも、国際感覚が生まれました。これまで遠い存在だった外国がとても近くなり、意思を伝えるためにはどのような英語力が必要か、また今後も海外へ行く機会を得るためにはどうすれば良いかが分かって自信が付きました。

このように、僕はオーストラリアで様々なことを学び、体験し、吸収してきました。今、僕に期待されていることは、まずこれらの経験を友達や地域の人たちに伝え、外国への興味や関心を持ってもらえるようにすることです。そして、この安曇野市が、外国から多くの人を訪れ、より発展するのに貢献したいと思っています。また、僕自身オーストラリアでの貴重な体験を絶対に無駄にせず、しっかりと自分のこれからの人生につなげ、日本や世界の先頭に立つ人間になれるよう頑張りたいと思います。

ホームステイの感想

明科中学校 3年1組 坂本 雅哉

僕はこの十日間のホームステイで、大変貴重な体験をすることができました。

僕は出国する前、初めての海外、そしてホームステイということで、楽しみでもあり不安もありました。しかし、オーストラリアへ降り立つと、見るもの全てが新鮮で、とても楽な気持ちで、ホストファミリーと会うことができました。会話を始めると、思ったよりスムーズに続けることができたので安心しました。

このホームステイによって得たものは、二つあります。一つ目は英語の聴き取り能力です。十日間の間、全てが英語に囲まれた生活を送ることは、正直とても不安でした。しかし、そんな中で、少しずつ相手の言っていることが理解できたり、ジェスチャーなどを使って、自分の気持ちなどを上手く表現することができました。お互いに心が通じ合ったときは、とても嬉しく思いました。この感覚は日本には感じることができないので、とてもよい機会だったと思います。

二つ目は、全く違う世界を見ることができたということです。今まで海外へ行ったことがなかったので、メルボルン空港に着いたとき、とてつもなく感動しました。これから、見たことのない世界が広がっていると思うととてもわくわくしました。メルボルンの町並みや雰囲気、そしてそこに住む人々に触れ合うことで、心がリフレッシュされました。世界は僕が思っていたよりも広く、知らないことだらけだと感じました。時間に追われる日本での生活を忘れ、今という時間をしっかり楽しむことができる、そんな十日間でした。

人は、小さなことで悩んだり、投げ出したりしてしまうけれど、気づかないだけで周りにはたくさんの見たことの景色が広がっているのだと思いました。

僕は、たくさんの応募者がいる中、このホームステイ事業の派遣者に選ばれて、遠く離れた国の人達と、言葉を交わして、名前と顔を覚えてもらったことを嬉しく思います。今回のホームステイに行くことができて、本当によかったと思います。

旅の記録



期待と不安の出発。



成田空港、自分たちの飛行機は。



メルボルン到着。



ホテルで一休み。



緊張、ホストファミリーと初対面。



ビーチで交流。

ホストファミリーの皆さんお世話になります。



阿部竜真です。



横田喜香です。



高橋由佳です。



青柳舞夏です。



高島琢登です。



田野文貴です。



赤羽絢夏です。



赤沼龍之介です。



小山絢香です。



小澤真樹です。



杉本 光です。



坂本雅哉です。



ホストスクール初登校。



全校児童の前で紹介していただきました。



パークデイルセカンダリーカレッジ
で中高生と交流。



日本語の授業に参加です。



ホストスクールで通常授業に参加です。



準備してきたプレゼンです。



クラスメイトとコミュニケーションバッチリ。



頑張れ、先生。



最高のクラスです。



ホストスクール主催の送迎会「ジャパニーズデイ」を開催していただきました。校長先生はじめ児童の皆さん、日本にちなんだ格好で参加していただきありがとうございます。



皆工夫を凝らしてくれました。



クイズ大会、盛り上がりました。



桃太郎の劇を観賞。



校長先生より修了証授与。



公共機関（トラム）で移動。



メルボルンのシンボル
「フリンダースストリート駅」



市内見学スタート、いざ、メルボルン中心街へ。



メルボルンの台所
「ビクトリアマーケット」



珍しい果物、ビックサイズの野菜、
生鮮食品など規模が違います。



「メルボルン博物館」



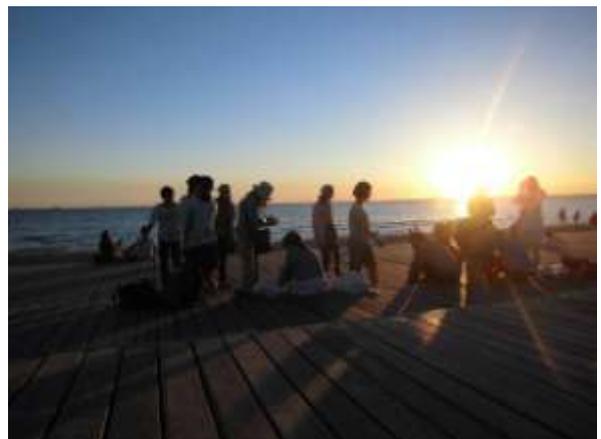
オーストラリアの文化に興味津々。



「ワイルドライフパーク」 Hello. ワラビー。 Hello. エミュー。



「ソヴリンヒル」 150年前の町並みを再現、さあゴールドラッシュ。



メルボルン名物
「フィッシュ&チップス」

メルボルンのサンセット
Goodbye オーストラリア。